

恭賀新年

昨年は、市議会議員選と市長選、トランプ大統領の就任、衆議院選挙とリーダーを選ぶ年であったように思います。また、経済的には、株は上昇したけれども、私たちに暮らしが良くなつたと言う実感がありませんでした。いわゆる自然な暮らしが、贅沢を言わなければ、普通に暮らせたようです。これこそ、先人が培われてきた智慧のおかげと感謝するばかりです。印象に残ったことは、わが宗派の要であります浄土教を発展なされた恵心僧都源信の展示会に、多くの壇信徒の皆様が、奈良国立博物館まで、日帰り旅行が出来たことです。本当にありがとうございます。

今年は、戌年です。阿弥陀如来が、守護本尊です。「極楽浄土に導き、救済の力、滅罪、敬愛」のご利益があるとされています。

ただご利益を待つだけでなく、勤勉で努力で持つて、ご利益を自ら手繰り寄せて頂ければ、良い年になるでしょう。



供養塔の開眼式を行う

十二月二十二日（金）の午前中、冬空の晴れ渡る中、厳かに、百体あまりの石塔の供養塔の開眼式を行いました。

当山の墓地に、花も手向けられない。お参りする人もいない。人々の先祖様が眠っているのに、だれも会いにきてくれないことに、あまりにも寂し過ぎるのではないかと思ひ、五年前から供養塔を建てるのに、寄進者を募ってきました。



もなく、毎年のお墓参りには、親戚の方がお参りに来られていたのですが、高齢で、もうお参りが出来ないと言うことで、墓じまいの要望を聞きまして、それではと言うことで、供養塔に移すことを提案したところ、快く引き受けて頂きましたので、この度、供養塔が出来る運びとなりました。

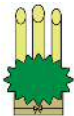
今後は、人々が減少していく中で、お墓参りが出来ない人々が増えていきますので、後世のためにひとつにまとめていく方が、先祖供養もしやすくなるのではないかと思います。いわゆる供養塔がこの世の極楽浄土であり、人々の安心を得るところだと信じています。

歳神様を迎えるのが正月

正月は、家に歳神様をお迎えし、祝う行事です。歳神とは、一年の初めにやってきて、その年の作物が豊かに実るように、また、家族みんなが元気で暮らせる約束をしてくれる神様です。正月に門松やしめ飾り、鏡もちを飾ったりするのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備です。

そもそも、私たちの祖先は、全てのモノには命があり、魂があると信じられています。作物の生命」と人間の生命は一つのものであると考えていました。そのため、人間が死ぬとその魂はこの世とは別の世界に行き、ある一定の期間が過ぎると「祖霊」、いわゆる「ご先祖様」になると信じられています。そして、歳神様は、家を災いから守ってくれるのです。この祖霊が春になると、「田の神」に、秋が終わると、山へ帰って「山の神」に、そして「歳神」になつて子孫の繁栄を見守ってくれているのだと言います。

門松や松飾りは、歳神様がおいでになるための目印ですし、しめ縄は、汚れのない清浄な場所(神様がおいでになつても大丈夫)というのを示すものです。



心の鏡

鏡は、姿を映し、姿は心を映すものです。外出するときには、必ず自分の姿を点検してします。そもそも、鏡という言葉は、どのようにして出来たのかご存じですか。それは「考(かん)が(か)みる」という言葉が転じて出来た言葉だそうです。鏡を見て、自分の姿を見て、考えることです。我が身を振り返ることです。過去のあやまちをしないようにこれからの自分について考えてみる。たまに心の鏡に自分を写し出すと、ハッとして自分の悪い行動に気づき、修正をかけることができます。それが心の鏡です。鏡の中にはあなたの心も映っているのです。

弁解をしたり、ごまかしたりしていたのでは、後で、自分を苦しめることになってしまふのです。ですから、正直な心で、ありのままの自分を見つめることが大切です。また、感謝の気持ちと謙虚な心を常にもち、「自分がどうなっているのか。」と、自らを求める心を持つことが出来れば、心の鏡は至るところにあらわれてきます。

衣裏繫珠

法華経のたとえはなし
えりけいじゆ

ある人が、親友の家を訪ねて、「ごちそうになり、二人して酒によって眠ってしまいました。ところが、その親友は、急に公用で旅行に行かなくなければならなくなりました。寝ている友だちを起こすのも気の毒に思い、貧乏しているその人のために、高価な、値打ちのある宝珠を着物の裏に縫い付けておいて出かけたのです。

目が覚めたその人は、親友がいなくなつていたのでその家を立ち去りましたが、あいかわらずの貧乏ぐらして、ついに放浪の生活に入りました。そして、衣食のために大変な苦勞をし、ほんの少しでも収入があると、それで満足するという状態でした。ずいぶんたつてから、その人は、むか

しの親友と道でばったり出会いました。親友のあわれな姿を見て「なんとという愚かなことだ。私は君が安楽に暮らせるようにと思つて、高価な宝珠を着物の裏に縫い付けておいたんだよ。…。あ、これ売って、なんでも必要なものを買いなさい。何不足ない生活ができるよ。」といいました。今の時代に当てはめても『生きている価値がない』とか『生きていてもしょうがない』とかで投げやりにさまざまな事件を引き起こしているケースが多いように思います。

自分の中に尊い価値があること、相手にも尊い価値があること、このことにまず自らが気づくことが大切なのではないでしょうか。

仏教では、合掌をします。法華経でも合掌礼拝を説かれています。この合掌は、相手の本性である、仏性を拝み、礼拝するのだと教えてもらっています。自然に心のうちから合掌できるようなりたいものです。



文芸

傾ける 日々かけに 翳おぼもちて 豊かなる

面輪おもにならび います石仏

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様の参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、「一報下さい」。

発行者 高島市安曇川町中三四五九
天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基
電話 〇九〇—三七〇八—七二〇六
FAX (〇七七) 五〇二—二二七九
Eメール svka37375@leto.eonet.ne.jp
新Eメール info@gyokusenji.com
ホームページ 「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」を「らん下さい」。